

講義名	情報ネットワーク			授業形態	
担当教員	平越 裕之	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	3年生

主題と概要

コンピュータを中心としたデータ通信を実現する技術について学習します。データ通信について概説を行い、データ通信を行うための基礎技術やネットワークにおける標準化のモデルも扱います。インターネットプロトコル(TCP/IP)についても時限を割く予定です。
 技術の深い部分には入りませんが、計算や仕組みなど、情報ネットワーク1では扱わなかった技術的な内容を中心に扱います。我々が使っているネットワーク上でどのような物理現象が発生しているのか、日頃から興味・関心を持っておいてください。
 <本講義は大学の判断によりオンラインに移行する可能性がある講義ですが、いずれの場合でも定期試験は定期試験期間に大学で行う予定です>

到達目標

情報ネットワーク1のような入門・概論的な内容を十便理解したうえで、さらに基本的な情報通信ネットワーク技術についての知識を持ち、ユーザとしてネットワークの構成や設定等が行えるようになる。

提出課題

<対面講義の場合>
 何らかの小テストを課します。
 <オンライン移行中>
 講義時に指定する通常提出課題や通常課題よりも早い提出締切時間となる小テストのような課題など
 課題提出を指示する回の講義内容だけでなく、それ以前の内容についても課題範囲に含まれます。そのつもりで毎回受講して下さい。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

当日、または後日に小テストの解説を行う時間を取ります。

評価の基準

小試験と定期試験の得点を合わせて評価します。試験は講義、あるいは演習内容を十分理解しているかどうかを問う問題を出題します。
 小試験とは、講義時間中に行うテストや課題、持ち帰って作成してもらう自宅学習課題、オンライン移行中の課題などの総称です。
 次に評価の詳細です。次のようにして自履修生の総得点を計算しそれに基づき評価します。
 総得点は定期試験60-70%、小テスト30-40%の割合で合計する。
 ・定期試験を受けないと、「単位取得放棄」とみなします。
 ・全講義中に行なう小試験の実施回数は3回を最低保証回数とします。
 ・小試験の実施回数の上限は設けません。最低回数3回になるか、あるいは6回になるか、それは内緒です。
 ・「常識外の迷惑行動」を行い講義の進行に多大な迷惑をかけるものについては、(常識外の迷惑行動による減点)を行なう場合があります。この場合には本人に減点得点を通知します。
 (なお、以上の評価方法については、オンラインへの移行期間がどの位か等の状況によって、合理的な範囲で変更する可能性もある)
 評価基準について質問がある場合には、第一回目の講義時間に質問して下さい。

履修にあたっての注意・助言他

情報ネットワーク を十分理解していること、及びより技術的なトピックにアレルギーが無いことが望ましい。
 情報ネットワーク は、世の中の動向を紹介するような概論であるが、本講義は、技術的側面を扱うことが多い。
 <対面講義期間の場合>
 準備物
 ・マクシート用鉛筆。(いくつかの小テストがあるかわからない)
 注意・助言
 ・マスクの正しい着用・大声を出さない・人と適切な距離をとるなど、自分と他者を守る行動を常に心がけて下さい。また、 unnecessary 私語は厳禁です。教室は終日飲食喫煙禁止となっています(履修要項参照)。
 これらのことは教室外で行なって下さい。ただし、講義中に教室を出入りする場合には、他の受講者の迷惑とならないよう、十分気を遣い静かに行なって下さい。授業中の出入りを推奨しているわけではありませんので、最小限にとどめてください。遅るなら出席しないてください。
 講義中、学生証を確認することがあります。学生証は必ず持参してください。
 これらのことについて質問がある場合には、第一回目の講義時間に質問して下さい。
 <オンライン講義期間の場合>
 対面講義を収録したものが、または事前に準備したものを教材とし、対面講義日時の翌日までには動画による講義を視聴可能にする予定です。可能な限り早く受講して課題提出の指示があれば締め切りを確認し指示を守って提出して下さい。課題は、誰かやどこのコピーペースト(Copy&Paste)でなく、自分の力で作成して下さい。
 <このシラバスについて>

教科書

.使用しない。					
---------	--	--	--	--	--

参考図書

その他

プリント配布

授業計画

- 1: インTRODクシヨン、データ通信、ネットワークについて
 - 2: アナログ信号とデジタル信号
 - 3: 符号化、変調、多重化概説
 - 4: フローバンド、多重化概説
 - 5: ベースバンド
 - 6: 多重化
 - 7: 繰り脚
 - 8: CRC
 - 9: プロトコル、OSI参照モデル、TCP/IP
 - 10: TCPとUDP
 - 11: IPアドレス1
 - 12: IPアドレス2
 - 13: ルーティング
 - 14: ネットワーク機器の役割
 - 15: まとめ(含演習)
- 内容は前後・変更することがあります。
 対面授業履修者と一緒に通字困難になった場合は対面授業の中での対応(オンデマンド授業へ移動はしない)となります。

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア: PBL(課題解決型学習)	イ: 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ: ディスカッション、ディベート	エ: グループワーク
オ: プレゼンテーション	カ: 実習、フィールドワーク
キ: その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

学習した概念の整理や仕組み・技術の確認など、毎回の学習内容を4時間程度復習することは知識定着に重要です。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

情報ネットワークが経済社会の中で果たす役割を、クラウドコンピューティングやECなどの例を通じて理解できる。IT専門知識の一つとして情報ネットワークにおける技術的側面を理解する。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考